

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
〒680-0846鳥取市扇町21番地
東教発 H23.9.1 No.106
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

桜ヶ丘中学校区小中連携振興会(吾桜振興会)の取組 ～やさしさとたくましさを併せ持ち、高い志を持つ子～

桜ヶ丘中学校区では、義務教育9カ年間の学校教育力を向上させるために、4つの部会と7つの担当者会を組織して、小中連携の取組を進めています。その中核となる取組として、7月1日に桜ヶ丘中学校で校区合同授業研究会が開催されました。当日は校区小・中学校5校の教職員(約120名)が、公開された4教科(数学、理科、英語、体育)に分かれて授業を参観し、活発な協議を行いました。最後に全体会で、教育実践「響の会」角田 明先生(元茅ヶ崎市教育委員会指導担当参事)の講評がありました。翌日には鳥取環境大学に角田先生を講師として迎え、校区PTA・桜ヶ丘グリーンゾーンと共催して合同研修会を行いました。関係者約330名の参加を得て、中学校区全体で子どもを育てる機運と参画の意識を高めました。

【授業研究及び協議の視点】

- ・伝えたいことをわかるように表現させること
- ・主体的な活動を通してじっくり取り組ませること
- ・できるようになるまで丁寧に取り組ませること

小学校教員の意見

中学校の体育実技を見て、学習規律の定着がすばらしいと感じた。

中学校教員の意見

授業も生徒指導の場であるので、集団規律の徹底を大切にしている。

本時は既習事項を活用し、発展的な問題を解くことができるということを実感させたかった。多様な方法や考え方を outsさせることによりねらいに迫りたい。

ALTの先生と親しみたいという児童が多い。修学旅行に行った時も、外国の人に隠せず話しかけていた。

本校区の生徒は英語に対する抵抗が少ない。小学校で学んだことをもとにレベルアップした内容を教えていきたい。

はっきり表現させるというねらいは、小学校で指導していく課題でもある。算数でも言語活動や自分の考えを伝え合うような活動が増えてきている。

角田先生の講評

授業研究は、子どもの成長を授業で確認することが重要である。したがって授業研究をするなら子どもの名前を出し合って、今日の授業で子どもがどのように変わったかを確認すべきである。

大人の幼児化が課題として見受けられる昨今、いつまでも子どもの目線ではだめ。今はできなくても、いつかはできるようにさせる、子どもをある面、大人扱いをして背伸びをさせることが重要である。

校区の小中学校の教員が一堂に会して、小学校と中学校の授業の違いについて率直な感想や意見を出し合うことで、それぞれが大切だと考えて実践していることが理解し合えるようになります。小学校で育てた力が中学校でも伸ばせるように、また中学校で身につけさせたい力の素地を小学校でつくっていきけるように、子どもの育ちを中心に据え、授業改善に取り組んでいくことで小中一貫教育は動き出します。

「攻めて待つ」「ケア」で学習の自立をめざす 局長 久岡 賀代子

学校訪問の授業で、学習課題に真剣に向かっていく子どもの姿を見ました。そのときの先生は、一方的に教え込むのではなく、話じっくりと耳を傾け、子どもが率直に意見が言えるように笑顔で待ってられました。また、ある学級では、発展的なレベルの高い課題が提示されていました。この時、先生はすぐに説明するのではなく、解けた子どもたちが、わからないでいる子どもたちに、納得するまで教えるという協同の活動に任せておられました。そこには、集団として難しい問題も諦めない気持ちが育っていることを感じました。

どちらにも共通するのは、教師が子どもたちの力を信じ、一人一人の子どもの疑問を学びに向かう課題に変え、みんなで共有するという学習スタイルです。そこには、「攻めて待つ」、そして、すべての子どもが学びに参加できる「ケア」を用意するという教師の心構えがあります。

子どもの学習の自立のために、学びたいと思う手立てを工夫すると同時に、子どもが互いに学び合う学級・学年経営を望みます。



社会教育コーナー

魅力ある保護者会の持ち方・進め方とは・

保護者会を行うとき、「参加者が減ってきた」「会での意見が出にくい」などの悩みはありませんか。保護者はどのような保護者会を求めているのでしょうか。これらの課題について参加者と一緒に考えました。

導入 アイスブレイキングをする

【ポイント】
和やかな
雰囲気をつ
くる



【内容】・バースデイライン ・ネームチェーン
・キャッチ ・この指止まれ
→初対面の人同士も自然に打ち解け、笑顔が見られました。

展開 ロールプレイ「宿題やった?」を見て『やる気を育てる関わり方』について話し合う

【ポイント】
客観的に自分の関わり方を
振り返る。演じる役は、教師、
教師と保護者、保護者などいろ
いろと工夫ができる



【内容】・ゲームをめぐっての親子
の会話から、親としてのよりよい言
葉かけなどについてグループで話し
合い、全体で意見交換をする。
→いろいろな声かけの方法に気づ
くことができました。



まとめ 話し合いをまとめる

【ポイント】
保護者の意見をまとめたり、担任としての意見を話したり
することで、家庭と学校が共に取り組むことを確認する

◆「魅力的な保護者会」にするためにはどうしたらよいでしょう。

- 〈保護者の立場に立つての模擬体験の感想〉
- ・知らない人と話したり、思いを共有したりできた。
 - ・4人ぐらいの少人数で、話しやすかった。
 - ・一方的な話ではなく、双方向で話ができよかったです。
 - ・自分の子どもの頃の振り返りがあり、語りやすかった。

ポイント

- 担任と保護者、保護者同士がつながる場となるような工夫を行う。
- 保護者が、受身的でなく主体的に参加できるような内容を考える。
- 教師と保護者が子どもの成長を感じられるようにする。

流れや進め方、案内や会場、テーマなどについて紹介しました。

◆保護者会を充実させるための工夫例

- ＜会場＞ ・花やヒーリング効果のある音楽
＜運営＞ ・手作りの名刺を使った自己紹介
＜話し合いのテーマ名＞
・○○のビデオ視聴→○○のビデオ必見！子どもたちの成長に驚き
・家庭学習について→家庭学習のやる気アップ作戦！



保護者会は、保護者同士がつながる場としても、先生と保護者が互いに学ぶ場としても大切な会です。保護者のニーズを情報収集し、楽しい工夫を加えて、「来て良かった」と思える保護者会を増やしていきたいですね。次回の第2弾ワークショップもお楽しみに。
(各学校でも、出前研修を行います。また、保護者会の資料などが必要な場合も、局に連絡ください。)

学事コーナー

～出張の復命は的確にできていますか?～

6月に旅費の内示がありましたが、本年度、全県の小中学校での旅費予算は、およそ2億円です。この多額の経費は公金であり、1円も無駄にせず、大切に使わなければなりません。予算執行に当たっては、事前に計画を立て、経済的、効果的に執行することを職員一人一人が自覚することが求められます。

出張を命じられた職員は、口頭復命等何らかの復命を校長に必ず行わなければなりません。特に、県外出張については、原則として復命書により復命することとなっています。

(「出張の復命等の取扱いについて(通知)」平成9年6月17日付小中第232号小中学校課長通知)

年度末の予算消費の出張は、厳禁です。予算が余れば返納しなければなりません。



復命書は、研修日程の記載だけで終わるのではなく、研修で学んだこと、自校に取り入れられることを明らかにするなどして感想・意見・提案を明記し、皆が共有できるようにしたいものです。復命書作成を単に義務の履行と考えず、学んだことを学校運営に生かすことや、自己の観察力や洞察力を磨く場面として捉える意識も必要ではないでしょうか。